

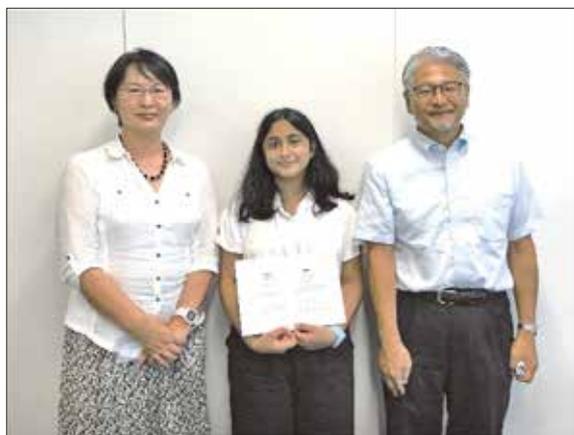
活動報告

インターンシップ報告

ERINA は、北東アジア地域経済の発展の促進や日本と地域の協力の強化に向けて、情報を発信し、調査研究や経済交流事業に取り組んでいる。北東アジア地域経済を専門とするシンクタンクとして活動する中で、その専門的な知識やノウハウを社会に還元すべく、研究業務に従事する機会を提供するとともに、北東アジア経済に対する理解を深める目的で、大学院生をインターンとして受け入れてきた。インターンシップの受け入れに際しては、調査研究部の研究員がメンターとして指導し、研究上の相談に応じている。

2003年にこのインターンシップ事業を開始して以来、すでに数多くの日本人および外国人のインターンシップを受け入れている。新潟大学、国際大学、東京大学、島根県立大学、モンレー国際大学院、モスクワ大学など様々な場所から大学院生が ERINA に滞在し、研究業務を体験している。また、彼ら／彼女らの専門分野も、現代社会、国際関係、経済、環境、自然科学と多岐にわたる。

今回は、インドから国際大学（新潟県南魚沼市）に留学しているバラリ・ルデュラキーさんをインターンシップとして受け入れた。ルデュラキーさんは大学では国際関係、特に紛争後の地域における行政構築について研究しており、様々な調査研究手法等を学ぶために ERINA でのインターンシップを選択した。モンゴルの経済と発展、そして気候変動に関する国際交渉の研究を行っているエンクハヤル・シャクダル主任研究員がメンターとなり、その指導の下で調査研究し、その成果を ERINA で報告した。



インターンシップは、特に卒業後すぐに就職を希望している学生にとって、その国の職場風土を理解する最も良い方法の一つです。7月5日から8月12日まで、私は ERINA でインターンシップをする機会をいただきました。このインターンシップに応募した理由は、調査研究と分析の分野で経験やスキルを習得し、日本の職場風土を理解したいと考えたからです。現在、私は国際大学の修士課程に在籍しています。国際大学には様々な国から来た学生達がいるため、様々な文化体験ができた

す。何人かの先輩方と話してみても、実りの多い夏休みを過ごすため、インターンシップに参加することに決めました。新潟市に滞在することで、大学がある小さな町とは違う都会的な生活スタイルを経験することができました。このことで日本に対する私の見方が大きく変わりました。

私はインドの北東部出身で、幼少期からずっと日本とその活気溢れる文化に興味を持っていました。日本への進学を決める前はアミティ大学ウツタルプラデシュ校に在学し、国際関係学部を卒業しました。ア

ミティ大学では国際関係学について非常に多くの有益なことを学ぶことができましたが、現在進行中の世界的な問題について東アジアの観点から見るという部分が抜け落ちていました。こうした理由から、日本への進学を決断しました。今在学している国際大学では国際関係や外交についての日本の視点を理解することができ、この分野に関する自分の興味を絞り込むことができました。

ERINA での1か月半のインターンシップを通して、調査研究を行うということはどう

いう意味なのか理解を深めることができました。エンクバヤル・シャクダル主任研究員の下で、研究調査の様々な手法や、自分の研究テーマを固めていくための様々な考え方を習得することができました。私の研究テーマは北東アジアとは直接関係していませんが、エンクバヤル主任研究員は色々と言ってくれたり、また適切な指導のおかげで研究報告のための準備を進めることができました。エンクバヤル主任

研究員から学んだことはとても有意義な経験になりました。インターンシップ期間中はERINAの皆さんもとても協力的で親切でした。公私に渡る交流を通して、職場エチケットを学ぶこともできました。

1か月半に及ぶ新潟市での滞在でありとあらゆる経験ができました。週末には街中を散策して楽しみ、白山公園や白山神社、新潟市の博物館などへよく出かけました。街中で食事をしたり新しいレストランを見つ

けたりしたのは、大きな思い出になりました。全体的に、新潟はとても快適で活気あふれる都市だと感じました。インターンシップ期間中サポートして下さったエンクバヤル主任研究員とERINAの皆さんには感謝しています。非常に有益で実りある夏季インターンシップ研修となりました。

(国際大学国際関係学研究科

バリリ・ルデュラキー)